

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390400246		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家名西(2階)		
所在地	愛知県名古屋市区西一丁目20番30号		
自己評価作成日	令和4年9月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390400246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は閑静な住宅街にあり南向きで日当たりも良く広いお庭があります。今年度は庭の畑でさつま芋の収穫予定です。現在は看取りまでお世話させて頂く事になり入居者様だけではなくご家族様にも安心して頂いております。食事は食品会社より材料を取り寄せ職員の手作りで提供、誕生日会等のイベントでは仕出し弁当やケーキ等を食べて頂いております。入居者様には自分のペースで生活が送れるよう職員一同で心掛け努めています。ご入居者様にとってここが自宅と感じられるようケアを行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った閑静な住宅地の中にグループホームがあり、戦火を免れた地域で昔からの生活環境が保たれている。地域と長く継続している朝のラジオ体操の参加、日々の散歩や買い物などで、地域の人々との交わりや地域に支えられながらのゆったりとした生活を送っているが、コロナ禍で未だに踏み止まっている。開設16年目を迎えるホームは2階建てで広い庭とテラスがあり、庭木を眺めたり、季節の草花や野菜作りを入居者と共に楽しんでいる。庭先の道路に面した所に地域の小さな祠があり、行きかう人と挨拶を交わす機会もある。職員はここで暮らす入居者の方々が「自分の家でのような生活」や「安心、安全で楽しく生きがいのある生活」ができるよう支援に努めている。コロナ感染予防のため外出支援に苦慮する中で、入居者の今出来ることを大切に、自分らしさや誇りを持って自分らしくゆったりと生活が送れるよう職員間で話し合い支援に取り組んでいる。入居者は広い南向きの居間でテレビを観たり新聞を読んだり、自分のペースでゆったりと過ごしている。買い物や喫茶店、ショッピングセンターのフードコートでの夕食、季節の花見などの再開を楽しみに待ち望んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで唱和し理念に基づいた行動を心掛けている。	ケア21の経営理念と事業所独自のビジョンを事務所に掲示し、ビジョンは毎年見直している。職員はコンプライアスマニュアルを一日一項目づつ毎朝唱和したり会議でも唱和して、理念に基づいた行動や理念を見失わないように共有を深め、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており地域との情報共有はできている。	町内会や地域の神社会に加入し初詣にも出掛けている。行事の案内などは近所の方が持参情報を得ている。新型コロナウイルス感染予防のため、地域の祭りや清掃活動、地域消防訓練などの参加や朝のラジオ体操での地域との交流は見合わせている。地域ボランティアの受け入れや中学生の職場体験、専門学校の実習等の受け入れは状況を確認し再開できるよう準備している。現在はコロナの状況を確認しながら散歩に出掛け地域の方と挨拶を交わすなどの交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の緊急時、車椅子等貸出をして介護施設として地域貢献に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナのため施設内だけで行っているが職員からの意見は随時対応している。	同法人3事業所合同で年に6回開催していたが、現在はコロナ禍の入室制限により事業所単位で職員と入居者を交え実施している。事業所の運営状況や活動報告と参加者からの意見や要望を聞き、その場で話し合ったり、職員間で協議したりして運営に反映させている。議事録は家族に報告はしている。地域住民、老人会や包括支援センターにはまとめて送付する方向にある。	コロナ禍により運営推進会議が書面開催となっているため会議録を今まで携っていた地域住民の方や民生委員、老人会、地域包括センターの職員の方に今年度の活動報告や今まで話し合われた議事録をまとめ、今後の開催に向けて情報の発信をされることを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	受診が必要な事故報告書や苦情報告書を名古屋市担当者意見交換している。	入居手続きの相談で担当窓口を訪れ、事業所のサービス内容を伝え、アドバイスや指導を受けている。コロナ禍により介護保険の手続きや申請の書類などは郵送し、各種報告事項等は電話で情報交換をしている。市が開催する研修の参加は必要に応じてZoomなどで参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の施錠は入居者様の要望に応じかけることはある。身体拘束に関してはベッドから転落の恐れのある入居者様のベッド横に布団を置き離床センサーを設置したり、クライニング車椅子の使用で、日中はフロアで過ごして頂いている。その他毎月経過観察と定期的な社内研修を行ない身体拘束廃止への意識を高めている。	年に2回本社の研修計画に基づきマニュアルを利用して、職員全員がリモートなどで研修を受け、身体拘束をしないケアを実践するよう努めている。運営推進会議で報告を行い、意見やアドバイスを得ている。やむをえずベット柵や離床センサーを使用する場合は家族と相談し安全も考慮した対応に努めている。不適切な言葉があった場合は職員同士で注意し合える環境を整え拘束感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を設けている。事業所でも研修を行ない虐待の予防、防止に努めるよう高い意識を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の権利擁護利用者がいて月に一度訪問がある。その際、近状報告相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書を元に一つ一つ説明をさせて頂き不安や疑問点を尋ねながら理解を図った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度ご利用者の状況連絡帳をお便りで送付している。要望を頂いた際は随時、申し送りノートや朝礼、会議で伝達している。	日々の生活の中から入居者の意見や要望を聴いている。家族からは面会時や電話で意見や要望を聞くようになっている。聞いた意見は申し送りノートに記録したり毎日の朝礼や会議で話し合って日々のケアや運営に反映させている。また、毎月の行事をブログを利用して発信したりショートメールで状況を伝えたり、職員のコメントを添った個別のお便りを家族に届けたりしている。	コロナ禍に於いて入居者の様子が家族に伝わりにくい状態が続いているため、毎月送付している状況連絡帳を活用して日々の記録や気づきの記録の中からお知らせしたいエピソードや日常の暮らしぶりなど家族により多くの具体的な情報が届けられることを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所にはいつでも出入りでき提案を聞いて問題点に関しては早急に解決できるようにしている。	日々の業務の中や朝の申し送りでは意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。職員の意見や提案などは施設会議やフロア会議等で話し合い、業務改善や運営に反映させている。年に一度「誰伸び人事制度」では職員の良いところを見いだし向上心のアップに努めたり、年2回の自己評価を基に直接面談をして一人ひとりを温かく見つめ、職員の可能性とモチベーションを高めるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、誰伸び制度があり向上心アップに努めている。経営理念に基づき職場環境を良くしていくよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や、できる限り外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所施設との交流はあるが、他施設との交流はない。交流の機会があれば考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通の可能なご利用者には直接話を傾聴し不安解消に努めているが、意思疎通の困難なご利用者にはご家族に傾聴したり生活歴や表情で読み取り安心して生活できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望があれば可能な限りの相談・支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用にかかわらず相談に合わせた介護サービスの利用方法や他サービス事業所・医療関係への紹介をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけご利用者本位の介護を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡帳を送付し月に一度の近状報告はできている。ご家族との写真を居室に飾ったりして家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ができる時期は出来る限り、本人の馴染みの場所へ行けるよう支援している。	新型コロナの状況を確認しながら初詣や施設前の祠に手を合わせたり散歩などで近隣の人に挨拶をするなど地域との関係が途切れないようにしている。家族とは、手紙や季節に応じた貼り絵の葉書などを送り家族との絆を維持するよう努めている。日常の家事仕事では洗濯干しや洗濯たたみをしたり、フローアの掃除や手すりの消毒などをして感染予防も日常生活の一部となっている。デザイン画の塗り絵や貼り絵、歌を歌ったり読書などの趣味の継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように会議で話し合い、職員が介入しながら他者同士の関わりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご利用者やご家族からの依頼に対しても必要に応じ相談・支援をしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族の要望には出来る範囲で応えている。困難な方にはご家族の意見を聞くよう努めている。	日常生活の中で入居者との関りやさりげない会話、表情などをくみ取ったり、入浴時や睡眠前のゆっくりした時間に入居者に寄り添い希望や意向を把握するように努めている。思いの表出が困難な方には家族に意向を聞いたり、本人本意で検討してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から聞き取り情報収集している。古くから努めている職員がいるのでその方にもここでの今までの暮らしを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事量、言動・行動を観察し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議で、六ヶ月に一度モニタリングをし評価している。モニタリング以外も状況等変化があればその都度話し合いをしている。	日々のケアの中で気づいたことや気になる事を申し送りノートに記録し、職員全員に周知している。毎月のフロア会議に管理者も参加し、入居者の課題やケアについて検討し課題の変更があればその場で話し合い見直すようにしている。計画作成担当者は6か月毎にケアチェック表を基にモニタリングを行っている。同じ時期に入居者や家族、医療関係者等の意見を参考にしながら計画の見直しもを行っている。状態の変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のフロア会議で、六ヶ月に一度モニタリングをし評価している。モニタリング以外も状況等変化があればその都度話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的に低下したり、認知症の進行に合わせて個々のケアの変更には取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのお店や地域との関わりを大切にしながら本人のペースに合わせた暮らしの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの連携医と相談し必要であれば本人、ご家族の希望している医療機関への通院を支援している。	入所時に今までのかかりつけ医か提携医かの希望を確認しているが、提携医を希望される方が多い。月2回の内科と歯科の往診が受けられる。専門科は家族の協力を得ながら受診しているが、施設でも対応をしている。月4回提携医の看護師が訪問し入居者の健康管理に努めている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間対応で提携医や協力医療機関による連携体制の下、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医の看護師は、月に4度の医療連携による訪問看護の状況報告をしっかりと行なう事により連携医とも相談を行ない支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ご利用者様が入院した際、病院へ連絡を行い都度情報交換を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になる前の段階で連携医、ご家族様と今後の治療法についての話し合いをし、ご本人様・ご家族様の意見を尊重しチームでの支援ができるよう努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し意向を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、早い段階から家族や医療関係者、職員等で話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう努め、可能な限り希望に添う支援をしている。提携医が看護師や職員と連携し共にチームで支援できる態勢が整えられている。職員間で看取り後の研修を行い、メンタル面のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制は出来ている。応急処置等の対応の研修はしているが実践は一度もない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を行い、水害、夜間想定での消防訓練を行った。災害時の備蓄品も備えている。	年2回、昼間、夜間を想定した火災や地震の避難訓練と庄内川の氾濫を想定した訓練を実施している。運営推進会議で災害対策を議題としたり、小学校での消防訓練に参加したりして地域との協力体制を築いているが、コロナ禍で踏み留まっている。備蓄品は食料や水を入居者と職員分を含め3日分と簡易トイレや毛布、非常用バッテリーを備えている。備蓄品は本社でリスト化し期限等の管理と補充をしている。リストや保管場所は事務所に掲示して職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握した上での言葉かけを心掛けている。	職員は日々のケアの中で、人生の先輩としての尊敬を保ち、誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。特に排泄や入浴時の対応や、日々のケアの中で入居者の嫌がる事や傷つく言葉かけに配慮したケアに努めている。職員は、本社の研修計画に基づき技術や知識の習得に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないようにし、開かれた質問で本人の希望が言えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的自由に、自己のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には自由にして頂いている。自己決定できない方にはこちらで支援し身だしなみには配慮していつまでもお洒落ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度の誕生日会やイベントの食事では入居者様の好みの食事を提供している。日常生活においても簡単な作業等は一緒に行なっている。	委託業者から旬の食材を購入し栄養バランスの整った献立を利用して事業所で調理をしている。誕生日や行事食には入居者の希望や好みを優先にし、仕出し弁当やちらし寿司の出前を取って提供している。畑で収穫したさつま芋を調理したりコーヒーゼリーなどの手作りおやつも楽しみの一つとなっている。お盆拭きやテーブル拭きなど職員と一緒にしている。職員も入居者を見守りながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリーはあらかじめ計算されており食事量・水分量のチェック、月に一度の体重測定で身体状況により個々に合わせている。軟飯、刻み食等個々に合わせた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声掛けをし、介助の必要な方にはご本人様の残存機能に応じて見守り・一部介助をさせて頂く。口腔内に異常があれば歯科往診の受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックは行なっている。排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ない出来るだけ失禁の軽減に努めている。個々の状態に合わせてオムツの使用をしている。	排泄チェック表を参考に、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。昼間はトイレで排泄の支援を優先し自立支援に向けた取り組みにより、布パンツで過ごされる方もいる。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に丁寧な見守りと誘導を行っている。必要に応じて夜間のみポータブルを利用するなど、個々の状態に合わせた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の記載、毎日の排便チェックを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は3日置きの入浴だが、本人様のリズムに合わせて支援をしている。土曜、日曜は入浴剤の使用で温泉気分を味わって頂いている。	3日に一度、午後の時間に入浴をしている。湯や足拭きマットは毎回取替え清潔に留意している。土曜日、日曜日は入浴剤を使い温泉気分を味わったり、庭の柚子を浮かべてゆず湯や菖蒲湯で季節感を味わっている。入浴後は化粧水で肌のお手入れをする方もいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫し、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に生活をしている。身体に負担がないよう昼間臥床時間を設けたりしている。昼夜逆転も少ない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況に変更がある時は随時申し送りをして職員同士対応の統一をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望で、適時買い物代行をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出はほとんど無いが外出との接触の無いドライブレクはある。天気の良い日は施設の庭で日光浴を楽しんでいる。	昔ながらの街並みや神社など四季の移ろいを感じながら散歩に出掛けられる環境にある。新型コロナの感染状況を確認しながら施設周辺の散歩やテラスで庭の木々を眺めながら外気に触れるよう努めている。現在朝のラジオ体操の参加は見合わせているが、入居者が楽しみにしている季節のお花見をドライブをしながら車窓より眺め楽しんでいる。今後入居者の希望に沿った外出や家族と墓参りなどに出掛けられる日が来ることを待ち望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設での預かり金として不足した日用品・本人希望時に使用する。ご家族様から直接もらい自分の好きな嗜好品等に使用している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればその都度支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには歩行の妨げになるようなものは置かず、誕生日者の名前を貼ったり、室温騒音に気を付け居心地の良い空間を作れるよう努めている。	食堂と居間がワンフロアで入居者の動きや気配が良くわかり、明るく開放感のある共用空間となっている。大型空気清浄機を2台置き感染症の予防対策もしている。壁面のホワイトボードには今日の日付や出勤職員の顔写真を掲示して職員の名前が分かるような配慮をしている。居間は入居者が混乱をまねかず落ち着いて過ごせる様に、華美にならない程度の季節の作品を飾るなど環境作りに配慮している。入居者は、思い思いの場所で読書をしたり歌を口ずさんだり、テレビを鑑賞したりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、馴染みの家具や布団等、使い慣れたものを用意して頂きたい。	居室にはベットとエアコンが備え付けられ、畳模様の床は馴染み深い和の雰囲気となっている。使い慣れた家具や椅子、テレビなどを持ち込み、家族や孫の写真、お気に入りの手作り作品を飾って安心できる居室環境を整えている。職員と一緒に身の周りの整理や掃除をして居心地の良い自分の部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室に目印をし手すりに物は置かない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390400246		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家名西(1階)		
所在地	愛知県名古屋市区西一丁目20番30号		
自己評価作成日	令和4年9月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2390400246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は閑静な住宅街にあり南向きで日当たりも良く広いお庭があります。今年は庭の畑でさつま芋の収穫予定です。現在は看取りまでお世話させて頂く事になり入居者様だけではなくご家族様にも安心して頂いております。食事は食品会社より材料を取り寄せ職員の手作りで提供、誕生日会等のイベントでは仕出し弁当やケーキ等を食べて頂いております。入居者様には自分のペースで生活が送れるよう職員一同で心掛け努めています。ご入居者様にとってここが自宅と感じられるようケアを行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った閑静な住宅地の中にグループホームがあり、戦火を免れた地域で昔からの生活環境が保たれている。地域と長く継続している朝のラジオ体操の参加、日々の散歩や買い物などで、地域の人々との交わりや地域に支えられながらのゆったりとした生活を送っているが、コロナ禍で未だに踏み止まっている。開設16年目を迎えるホームは2階建てで広い庭とテラスがあり、庭木を眺めたり、季節の草花や野菜作りを入居者と共に楽しんでいる。庭先の道路に面した所に地域の小さな祠があり、行きかう人と挨拶を交わす機会もある。職員はここで暮らす入居者の方々が「自分の家でのような生活」や「安心、安全で楽しく生きがいのある生活」ができるよう支援に努めている。コロナ感染予防のため外出支援に苦慮する中で、入居者の今出来ることを大切に、自分らしさや誇りを持って自分らしくゆったりと生活が送れるよう職員間で話し合い支援に取り組んでいる。入居者は広い南向きの居間でテレビを観たり新聞を読んだり、自分のペースでゆったりと過ごしている。買い物や喫茶店、ショッピングセンターのフードコートでの夕食、季節の花見などの再開を楽しみに待ち望んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで唱和し理念に基づいた行動を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており地域との情報共有はできている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の緊急時、車椅子等貸出をして介護施設として地域貢献に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナのため施設内だけで行っているが職員からの意見は随時対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	受診が必要な事故報告書や苦情報告書を名古屋市担当者と意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の施錠は入居者様の要望に応じかけることはある。身体拘束に関してはベッドから転落の恐れのある入居者様のベッド横に布団を置き離床センサーを設置したり、クライニング車椅子の使用で、日中はフロアで過ごして頂いている。その他毎月経過観察と定期的な社内研修を行ない身体拘束廃止への意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を設けている。事業所でも研修を行ない虐待の予防、防止に努めるよう高い意識を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の権利擁護利用者がいて月に一度訪問がある。その際、近状報告相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書を元に一つ一つ説明をさせて頂き不安や疑問点を尋ねながら理解を図った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度ご利用者の状況連絡帳をお便りで送付している。要望を頂いた際は随時、申し送りノートや朝礼、会議で伝達している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所にはいつでも出入りでき提案を聞いて問題点に関しては早急に解決できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、誰伸び制度があり向上心アップに努めている。経営理念に基づき職場環境を良くしていくよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や、できる限り外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所施設との交流はあるが、他施設との交流はない。交流の機会があれば考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通の可能なご利用者には直接話を傾聴し不安解消に努めているが、意思疎通の困難なご利用者にはご家族に傾聴したり生活歴や表情で読み取り安心して生活できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望があれば可能な限りの相談・支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用にかかわらず相談に合わせた介護サービスの利用方法や他サービス事業所・医療関係への紹介をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけご利用者本位の介護を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡帳を送付し月に一度の近状報告はできている。ご家族との写真を居室に飾ったりして家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ができる時期は出来る限り、本人の馴染みの場所へ行けるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように会議で話し合い、職員が介入しながら他者同士の関わりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご利用者やご家族からの依頼に対しても必要に応じ相談・支援をしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族の要望には出来る範囲で応えている。困難な方にはご家族の意見を聞くよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から聞き取り情報収集している。古くから努めている職員がいるのでその方にもここでの今までの暮らしを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事量、言動・行動を観察し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議で、六ヶ月に一度モニタリングをし評価している。モニタリング以外も状況等変化があればその都度話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のフロア会議で、六ヶ月に一度モニタリングをし評価している。モニタリング以外も状況等変化があればその都度話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的に低下したり、認知症の進行に合わせて個々のケアの変更には取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのお店や地域との関わりを大切にしながら本人のペースに合わせた暮らしの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの連携医と相談し必要であれば本人、ご家族の希望している医療機関への通院を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医の看護師は、月に4度の医療連携による訪問看護の状況報告をしっかりと行なう事により連携医とも相談を行ない支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院した際、病院へ連絡を行い都度情報交換を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になる前の段階で連携医、ご家族様と今後の治療法についての話し合いをし、ご本人様・ご家族様の意見を尊重しチームでの支援ができるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制は出来ている。応急処置等の対応の研修はしているが実践は一度もない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を行い、水害、夜間想定消防訓練を行った。災害時の備蓄品も備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握した上での言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないようにし、開かれた質問で本人の希望が言えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的自由に、自己のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には自由にして頂いている。自己決定できない方にはこちらで支援し身だしなみには配慮していつまでもお洒落ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度の誕生日会やイベントの食事では入居者様の好みの食事を提供している。日常生活においても簡単な作業等は一緒に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリーはあらかじめ計算されており食事量・水分量のチェック、月に一度の体重測定で身体状況により個々に合わせている。軟飯、刻み食等個々に合わせた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声掛けをし、介助の必要な方にはご本人様の残存機能に応じて見守り・一部介助をさせて頂く。口腔内に異常があれば歯科往診の受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックは行なっている。排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ない出来るだけ失禁の軽減に努めている。個々の状態に合わせてオムツの使用をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の記載、毎日の排便チェックを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は3日置きの入浴だが、本人様のリズムに合わせて支援をしている。土曜、日曜は入浴剤の使用で温泉気分を味わって頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に生活をしている。身体に負担がないよう昼間臥床時間を設けたりしている。昼夜逆転も少ない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況に変更がある時は随時申し送りをして職員同士対応の統一をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望で、適時買い物代行をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナにより外出はほとんど無いが外出との接触の無いドライブレクはある。天気の良い日は施設の庭で日光浴を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設での預かり金として不足した日用品・本人希望時に使用する。ご家族様から直接もらい自分の好きな嗜好品等に使用している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればその都度支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには歩行の妨げになるようなものは置かず、誕生日者の名前を貼ったり、室温騒音に気を付け居心地の良い空間を作れるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、馴染みの家具や布団等、使い慣れたものを用意して頂きたい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室に目印をし手すりに物は置かない。		